

# 第14回 大阪 民草の和をつなぐ会

## 「日本文化としての襦袢」

---

令和4年6月18日

# 日本文化としての惟神の道

## 神道と宗教の違い

- ◆ **神道：人間や自然そのものに対する信仰  
信仰を主体とした生活慣習  
教義を持たず結びついた社会集団  
常態としての共存感情**
- ◆ **宗教：人間や自然を超越した存在に対する  
信仰を主体とした思想体系、観念体系  
教義、施設、組織等を備えた社会集団  
ひたすらなる依存感情**

# 日本文化としての惟神の道

## 神道と宗教の違い

- ◆ **神道：生成する世界**
  - 一元一体の世界
  - 連続する世界
  - 個々の教訓の世界
- ◆ **宗教：存在する世界**
  - 二元対立の世界
  - 個々独立の世界
  - 統一された教義の世界

# 日本文化としての惟神の道

## 神道と宗教の違い

- ◆ **神道：全体的・公的**

**神道の祈りは、常に集団祈願、集団の幸福**

- ◆ **宗教：個人的・私的**

**宗教の祈りは、個人の祈願、個人の救済**

# 日本文化としての惟神の道 神道と宗教の違い

## ◆ 神道：現在的

今の世を高天原(天国、極楽)に

千代に八千代に弥栄、終わりになき世

→今の世を少しでもよくしよう

## ◆ 宗教：将来的

現世は罪悪の世、穢土、仮の世

世紀末、終末思想

→死後に救済・幸福を得たい

# 日本文化としての惟神の道

## 神道と宗教の違い

### ◆ 神道: 包容的

神道の神は、きこしめし、みそなわし、しろしめす  
いつでもだれでも受容する

万物万象神の末裔、神の顕れ、悪も正す一元論

### ◆ 宗教: 排他的

宗教には入門儀式があり、差別化する

神は唯一絶対ゆえ、他の神・信仰を否定する

悪は排除する二元論



# 日本文化としての惟神の道

## 神道と宗教の違い

### ◆ 神道：積極的

自らが神として産霊・生成活動の主体となる  
未来は、今自分たちが創る  
禊祓

### ◆ 宗教：消極的

神の定めた運命、神の選択にゆだねる  
常に従たる立場、この世の未来に無責任  
懺悔、苦行・修行

# 大 祓

- ◆「大宝律令」 6月と12月の宮中行事として定む  
天皇の大身祓→皇族→国民「夏越神事」  
「茅の輪くぐり」
- ◆ 応仁の乱で廃絶  
「天下は破れば破れよ。世間は滅ばば滅びよ  
人はともあれ、我が身さえ富貴ならば」応仁記
- ◆ 明治4年、明治天皇が400年ぶりに復活



# 大 祓

- ◆ 目的：自ら神たる事を知り神に合一すること
- ◆ 祭祀とは  
神人合一を祈り、実行することが祭祀  
祭の精神が人生生活に実現されることが政  
政治、行政、司法、産業全て神と共に顕す

# 大 祓

- ◆ 初行：天を祓い、地を祓い、人を祓う

自分一人よくなるのではない

日本だけがよくなるのでもない

宇宙万有を悉く立派にしなければ已まない

自分を正し、人を正し、世を正す 一体精神

# 禊祓の意義

内部靈魂の活動が疲弊困窮( 氣枯 )したから  
禊( 靈注ぎ )祓( 張る靈 )  
弛緩した靈魂を振り立たせる

罪穢れを断ち( 身削ぎ )元に戻る  
相對分裂の禍津靈が絶対統一の直靈に転還  
生まれかわる

# 禊祓の性質

- ◆ 自らの意志と行為で、禍津靈を直靈に直す

**常に積極・能動の産靈作用**

**積極的に正善の方に進出、創造発展の努力**

**自己にとどまらず、社会をも正す努力**

**敵対者をも包容同化し正道にいざなう**

# 禊祓の倫理

- ◆ 人間はその団体生活を離れて、個人主義に走り、自由主義に趣くことが、邪悪の出発点である。団体生活の分裂解体が、人間悪、社会悪の根源である。
- ◆ 一切の邪悪を断つ途は一つ、自我を捨て、自利を捨てて、本然一体に帰一することである。

# 禊祓の根本義

- ◆ 禊祓は、宇宙の真理を日常生活において実現する行事である。
- ◆ 罪惡汚穢の解消は、消極的な反省や懺悔だけではだめで、必ず創造発展の積極的努力により、己の産靈の靈能を信ずる。
- ◆ 邪惡を改めて正善に進むことは、個人の修養や瞑想をいくら積んでも駄目で、その個人主義を捨てて、一体となって宇宙の真理の体現に尽くす。